

玉井小だより

平成27年11月30日

大玉村立玉井小学校

TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

学校を支えてくださる地域のみなさん

11月17日（火）村の学校支援ボランティアのみなさんが、学校の玄関や校舎周辺の松やケヤキ、銀杏の枝の剪定作業をしてくださいました。来てくださったのは、鈴木正雄さん、佐原三郎さん、渡辺久和さん、鈴木亨さん、武田伸一さん、武田好廣さんの6名のみなさんです。チェーンソーやノコギリ、剪定ばさみや、作業用のはしごまで持参し、朝の8時から昼過ぎまで作業をしてくださいました。玄関前の枯れた松を切り倒し、その後、ケヤキや銀杏の枝打ちをし、最後に校舎南側の松の剪定をしてくださいました。

松の剪定をしながら、松の幹を丁寧に手でこすり、古い皮を落として下さいました。

「この古い皮と幹の間に虫が入るんだよ。古い皮をはがしてきれいにしてやらないと・・・」。松にとっては、シャワーを浴びてるようなもんだな。」と言いながら、我が子をいたわるように丁寧に優しく手入れをしてくださいました。

おかげさまで隙間なく茂っていた松も、スッキリとし、枝の間から空が見えるようになりました。松の幹もきれいな赤色になりました。本当にありがとうございました。



【銀杏の枝打ち】



【職人の技です。素人には真似できません。】



【松の剪定】

〈裏へ続きます〉

緊張の中でこそ「輝き」は生まれる



【2年2組 国語の授業】



【4年1組 道徳の授業】



【6年1組 算数の授業】

1月25日(水)午後、「おおたま学園公開授業研究会」が大山小学校を会場に行われました。大玉村が取り組んできた「人権教育」の二年次の成果を多くの先生方に見ていただくための会です。

県内はもとより、山形県や埼玉県からもおいでいただきました。ご来賓のみなさま等を含め約250名の先生方がおいでくださいました。本校の2年2組、4年1組そして6年1組の子供たちも、スクールバスで大山小まで移動し、授業を見ていただきました。子供たちは緊張しているものの、どの子も一生懸命学習に取り組みました。そして、とてもいい表情をしていました。

公開授業後、2年生は「緊張したな。でも授業の最後の方は普通にできたよ。」と言っていました。4年生は「道徳の時間で、たくさんの人がいて、きんちょうしたけど、いつもどおり考えを書けたりしたので、よかったです。」という感想を書いていました。

6年生は「緊張したけど、普段どおり勉強できた。中身もよく分かりました。」と担任に話していました。緊張の中で「やりきった」ときにこそ、子供たちに本当の「輝き」が生まれるのかもしれません。

研究会は教育の充実と先生方の指導力の向上のためのものではありませんが、子どもたちにとっても外部の方に見ていただくことはとてもよい経験になったと思います。これからの時代には、子供たちは、世界中の様々な人と、価値観や考え方の違いを乗り越えて協力し合って、問題を解決していかなければなりません。知らない人の前でも自分の考えを発表したり、自分の考えをまとめたり出来るようにしておくことはとても大切になります。

このような機会を与えていただいたことに心から感謝しています。